

2021年11月25日

兵庫医科大学
学長 野口光一

ご遺骨の返還手続き漏れについて

この度、医学教育・医学研究への深い理解と崇高な篤志の上にご協力いただきましたご献体に関して、本来なされるべきご遺族への連絡およびご遺骨の返還がなされていない事案が判明いたしました。

下記にて詳細経緯等をご報告申し上げますとともに、ご献体頂いた方々、ご遺族の皆様には心より深くお詫び申し上げます。

記

1. 手続き漏れが判明したご献体

2015年1月実施の解剖学実習に供した3名のご献体

2. 事態の発覚から調査対応の経緯

2014年に献体された方のご遺族代表様より、2021年10月5日、「献体してから未だ大学から連絡がない」とご遺体・ご遺骨の状況についてのお問い合わせをいただきました。それを受け、当該ご献体の状況を調査した結果、下記の事実を確認いたしました。

- ・2015年1月に実施した解剖学実習にご遺体を供し、実習終了直後に火葬済みであること
- ・同実習に供したご献体のうち、今回お問い合わせをいただいた方を含め、ご遺骨の返還を希望されていた計3名のご遺族に対して文書作成・送付の履歴がないこと
- ・学内遺骨安置室に当該3名の方々のご遺骨を安置したままとなっていること

上記の調査結果をもって、お問い合わせを受けたご遺族含め3名の方々のご遺族に対し、真摯に経緯の説明とともに謝罪を行いました。なお、本件以外にも同様の事案がないか、大学保有の全てのご献体登録者の情報、ご遺骨の保管状況等を徹底的に調査しましたが、この度の3名の方々以外に同様の連絡不備等はないことを確認しております。

3. 原因と再発防止策

本学におけるご献体の管理体制の現状は、献体担当事務部門にて、故人名、ご遺族代表者様の氏名、住所等の情報とともに、ご遺族宛て文書の作成・送付を行い、お申し込みからご遺骨返還までの文書一式を保存管理しています。また、ご遺骨につきましては、ご遺族へ返還するまでの間、本学建物内遺骨安置室で丁重に安置しており、解剖学教室にて、故人名や管理番号、ご遺骨の返還区分等の情報とともに管理しています。

本事案は、業務手順やマニュアルは整備していたものの、職員の退職等に伴い十分な引き継ぎがなされなかったこと、複数名担当制によるチェック機能や、担当部署内における管理体制が十分に機能していなかったことにより、当時の担当事務が本来行うべきご遺族への通知を怠り、ご遺族への必要な連絡、ご遺骨返還が滞っていることに気づかないまま今日に至ってしまったものと考えております。

本学ではこの度の不手際を深く反省し、今後二度とこのようなことが起きないように、以下の再発防止策に取り組んでまいります。

- ①担当業務の複線化と確実な業務引き継ぎ、上司による業務の進捗管理の徹底
- ②ご献体に係る情報とご遺骨の保管状況に齟齬がないか定期的な確認
- ③献体関連業務に従事する者の倫理観・責任感の醸成、意識の向上を図るための定期的な研修・教育による組織的な意識改革

以上